

**製品名: MSH2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80515**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:50-1:500,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	105kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MSH2
別名	FCC1; COCA1; HNPCC; LCFS2
遺伝子 ID	4436.0
SwissProt ID	P43246
免疫原	大腸菌で発現したヒト MSH2 の精製された組み換え断片。

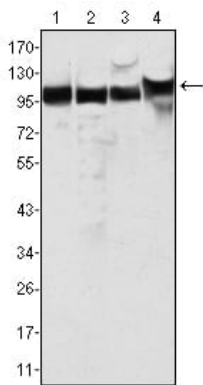
**背景**

MSH2 は 100 kDa の核抗原であり、934 個のアミノ酸からなるタンパク質をコードしています。MSH2 遺伝子は、DNA 複製または修復後のミスマッチヌクレオチドの修復に関与するタンパク質をコードする 4 つの既知の遺伝子の 1 つです。MSH2 遺伝子の変異

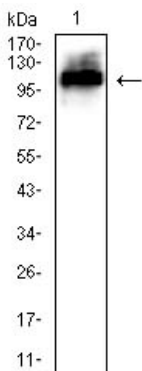
は、散発性大腸癌の発生に寄与します。MSH2 遺伝子の変異は、遺伝性非ポリポーシス大腸癌 (HNPCC) の 50% の原因です。ミスマッチ DNA の修復は、遺伝情報の完全性を長期にわたって維持するために不可欠です。マイクロサテライト反復の変化は、DNA 複製中の鎖の不整合によるずれの結果であり、マイクロサテライト不安定性 (MSI) と呼ばれています。DNA 修復経路のこれらの欠陥は、ヒトの発癌に関連しています。MSH-2 は、複製ミスマッチ修復プロセス中のミスマッチヌクレオチドの初期認識に関与しています。

## 研究分野

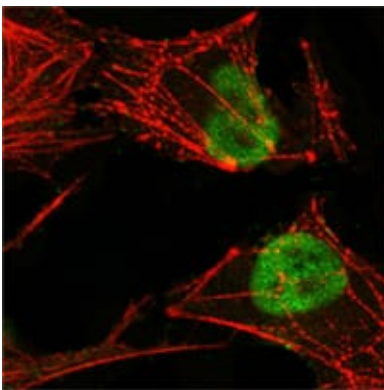
## 画像データ



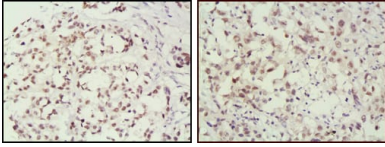
Hela (1)、A549 (2)、A431 (3)、および HEK293 (4) 細胞溶解物に対する MSH2 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



C2C12 細胞溶解物に対する MSH2 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



MSH2 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の共焦点免疫蛍光染色。核局在を示す。赤: アクチンフィラメントは Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されている。



パラフィン包埋ヒト乳がん（左）および肺がん（右）組織の免疫組織化学分析。DAB 染色による MSH2 マウス mAb を使用して核局在を示しています。